

ワタミの理念は不変です

今まで通り、“ありがとう経営”を継承してください。

私は、ワタミを創業し、外食・介護・宅食・農業・環境と・・・次々と社会から求められる事業に参入してきました。さらには個人としての学校・病院、加えて直接的に社会貢献を行う公益性のある団体を設立し、“ありがとう”集めを行ってきました。

私たちは、理念を、ただひたすらに追求してきたがゆえに、今のワタミをつくることができました。そして、日々、たくさんの“ありがとう”を集めさせていただいています。シンプルですが大切なワタミ理念は、人としての“ワタミ”の本質であります。それは「社風」であり、「ワタミらしさ」であります。

何度でも言います、言い続けます。

“ありがとう”を集める活動が、よりよい社会へのきっかけ(手段)となり、一人ひとりの働く社員の幸せにつながるということなのです。

ワタミの最終目的(ゴール)は、「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」というミッションを達成することであり、「一人ひとりの働く社員が、仕事を通して人間性を高めること」なのです。

“ありがとう”の飛び交う社会

夢あふれる社会

人々が安心して暮らせる社会

子どもが、高齢者が、安心して暮らせる社会のために、100年先からも、ワタミがあっただけよかったと言われるような会社であってほしい。

今般、私は立場を変えましたが、その追求するところは同じであります。

自信を持ってワタミ理念の追求をしてください。

さらなる挑戦、努力の継続、

あきらめない(夢を追い求める)追求心が不可欠であります。



ワタミグループ創業者

渡邊美樹

ふれあい報告書2013

■「ワタミグループCSR報告書」発行にあたり
「ふれあい報告書」というタイトルは、私たちの活動の根幹である経営理念からネーミングされました。私たちは、人として、社会の一員としての責任を果たし、事業活動を営む一方で、できる限りの社会貢献に取り組んでいくことが大切だと考え、「できることからコツコツと一歩ずつ」を基本に創業時より努力してきました。

2001年の環境・社会活動報告書の発行からはじまり、同年より、この考え方に基づく行動を「ふれあい活動」と名づけ、グループのブランドテーマに「環境とともに、社会とともに、人とともに」を掲げ、毎年、環境および社会貢献に関する報告書として、また2006年からはステークホルダー(利害関係者)の皆様との関わりについても記載し、CSR報告書として発行しています。

本報告書を通じて、皆様の温かいご理解と貴重なご意見を頂戴することができましたら幸いです。

■編集方針

本報告書は、その年の特集(ステークホルダーの皆様に関心が高い事項)に加え、ワタミグループの活動や取り組みをわかりやすくご紹介させていただくことを目的に、ステークホルダーの皆様ごとに掲載しています。

本報告書では、
□各ステークホルダーの皆様にご覧いただくことにご意見・ご要望を伺い、企業活動に活かしているか
□活動に対する姿勢、昨年度の課題に対する実績と評価、今後の目標を積極的に掲載しています。

なお、本冊子に記載されている内容は、「ワタミふれあいホームページ」でもご覧いただけます。
(<http://www.watami.co.jp>)

■対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)の活動を中心に、一部最新(2013年度)の情報を紹介しています。

※ワタミの介護(株)、ワタミタクシヨク(株)については、2月決算のため、2012年度(2012年3月1日～2013年2月28日)の情報としています。

■対象範囲

ワタミ株式会社および国内連結子会社7社を基本に、ワタミグループ全体、あるいはグループ会社の個々の活動についても紹介しています。

本報告書の、P4～13、P58では海外を含むワタミグループ全体について紹介しています。

※P22、P23「お客様とともに 外食事業(海外)」と、P35、P37、P42の「海外での取り組み」では、和民国際有限公司、和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、和民餐飲管理(上海)有限公司、台湾和民餐飲股份有限公司、Watami Food Service Singapore Pte. Ltd.を対象範囲としています。また、対象期間は、12月決算のため、2012年度(2012年1月1日～12月31日)としていますが、一部最新(2013年度)の情報を紹介しています。

※P51～57では、ワタミグループが支援する3つの社会貢献団体、公益財団法人 School Aid Japan、NPO法人 Return to Forest Life、一般財団法人 みんなの夢をかなえる会を対象としています。

■社名・団体名・事業名表記について

本報告書ではグループ会社の社名を略称で記載しています。(2013年10月末現在の社名を使用しています。)

1、ワタミ株式会社および国内連結子会社7社を「ワタミグループ」または「ワタミ」と表記しています。対象が異なる場合は、該当する会社名を記載しています。

2、(有)ワタミファームおよび(有)当麻グリーンライフを「ワタミファーム」と表記しています。

3、ワタミフードサービス(株)を「WFS」、和民国際有限公司を「ワタミインターナショナル」、ワタミの介護(株)を「ワタミの介護」、ワタミタクシヨク(株)を「ワタミタクシヨク」、ワタミ手づくりマーチャングアイジング(株)を「WTMD」、ワタミエコロジー(株)を「ワタミエコロジー」と表記しています。

4、公益財団法人 School Aid Japanを「公益財団法人SAJ」または「SAJ」、NPO法人 Return to Forest Lifeを「NPO法人 RFL」または「RFL」、一般財団法人 みんなの夢をかなえる会を「みんなの夢をかなえる会」と表記しています。

5、マーチャングアイジング事業を「MD事業」と表記しています。

■将来の予測・目標について

本報告書には、ワタミグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の予測・目標なども記載しています。しかしながら、これらの予測・目標は、記述した時点で入手可能な情報ないし判断であり、リスクや不確定な要因を含んでいます。

したがって、将来に生じる様々な要因により、活動結果が本報告書に記載した予測・目標と異なる可能性があります。読者の皆様には、以上のことをご理解いただけますようお願いいたします。

■発行日：2013年12月

目次

ワタミグループ創業者メッセージ	P 2
編集方針・目次	P 3
トップメッセージ	P 4
ワタミグループに共通する経営の考え方	P 6
ワタミグループの特徴	P 7
ワタミグループの活動	P 8
ワタミグループのガバナンス	P10

特集

1 より多くの“ありがとう”のために	P12
2 ワタミ夢ストリート	P14
3 ソーシャルビジネスへの支援	P16
4 創業記念祭	P17

東日本大震災復興支援のご報告	P18
----------------	-----

ワタミグループの事業活動のご紹介

お客様とともに	P20
株主様とともに	P32
お取引業者様とともに	P34
従業員とともに	P36
地域・社会とともに	P40
環境とともに	P44

ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

公益財団法人 School Aid Japan	P52
NPO法人 Return to Forest Life	P54
一般財団法人 みんなの夢をかなえる会	P56

ワタミグループ概要	P58
CSR指標	P59
編集後記	P60
2012年度アンケート結果	P61

バックナンバー

すべての「ふれあい報告書」は、ワタミふれあいホームページ (<http://www.watami.co.jp>) からPDF形式でダウンロードできます。



「起」の時代のワタミ、そして「承」の時代へ。

今まで通り、“ありがとう経営”を継承します。



ワタミ株式会社 代表取締役社長 兼
ワタミフードサービス株式会社 代表取締役社長
桑原 豊

ワタミグループは、この29年間で、太くて強い幹となり、そこには29本の年輪がしっかりと刻まれています。

私たちワタミグループは、100年先を見据えて創業から起・承・転・結という区切りを持って活動を続けています。

創業者の渡邊美樹が率いてきたこれまでは、いわば「起」の時代。

その「起」の時代につくってきたものは、外食事業でも、介護事業でも、宅食事業でもなく、「ワタミらしさ」そのものです。

さらに私たちには、体系的にまとめられたワタミ理念があります。

これ以上多くの言葉はいりません。この一つひとつを、一人ひとりが、常に意識し、行動し、判断基準としている事、そこに向かっての努力のプロセスの中で、“ありがとう”を集め、人として成長していく事、これこそが、「ワタミらしさの原点」なのです。

ワタミグループは「承」の時代に入りました。

「承」の時代、新たな価値を創造し、広く社会に貢献すべく、私たちは、ワタミらしさの原点である理念経営を守り続けます。

そのためには、できるだけ多くの仲間と対話をし、大切にしてきた理念経営を伝えていかなければなりません。

外食事業において、「安全・安心、手づくり、季節感」と多くの強みを持つ、居食屋「和民」の原点は、お客様のためだけにと戦ってきた私たちそのものです。その「人」の鮮度を向上させ、再びお客様に選んでいただける業態へと強化させていきます。

海外においても、他の日式レストランとは異なり、「日本のワタミをそのままに」の方針は徹底され、その強みは発揮されています。

「起」の時代に創り上げた「原点」を大切に維持します。

介護事業では、ご入居者様のためだけにと「四大ゼロ」を掲げ、介護業界の常識にとらわれない取り組みを展開してきました。加えてグループのシナジーを発揮させ「おいしい食事」を提供することができています。これらの取り組みを通して、お客様に選んでいただける介護施設を維持します。

また、ご好評いただいているデイサービスを今期でしっかりとつくり上げ、2つ目の成長の柱として位置づけます。

宅食事業においても、急速な競合状況とはなりましたが、ワタミには、お客様のためだけにと戦っている圧倒的な差別力となる「まごころスタッフ」がいます。

これらを土台で支えるワタミ手づくりマーチャндаイジングやワタミファームによる、有機野菜を使用した、手づくりの高品質なお弁当という武器もあります。

さらに、よりよい社会、安心して生活できる社会を目指して、事業活動だけでなく、社会貢献活動、環境保全活動にも積極的に取り組んでいきます。

すべては、いかに「ワタミらしいか」が分かれ目であり、これらの事を、私たちが、ワタミらしく、愚直にやり続けていくのみであります。

これからも「地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループになろう」というスローガンのもと、社会に対してよりよい存在でありたいと思います。

皆様の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

桑原 豊

ワタミグループ憲章

ワタミグループは、

- 一、地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるために戦う
- 一、一人一人の社員が人間性の向上のため、夢を持ち、夢を追い、夢を叶える努力をする
- 一、一人一人の社員が、人として美しい生き方を追求する
- 一、「人」が差別化となる、コツコツと売上利益を積み上げる事業にのみ参入する
- 一、お客様の満足をすべてに優先させる
- 一、公明正大な人事を行なう、完全実力主義こそ、人事の要諦とする
- 一、額に汗した利益のみを、利益と認める
- 一、ありがとうの分だけ売上を上げ、知恵の分だけ利益を出す
- 一、すべてのことにおいて、損得で判断をせず善悪で判断する
- 一、ワタミらしいことをすべて肯定し、ワタミらしくないことをすべて否定する
- 一、100年先から見た経営をする、100年先から見た時、問われるのは数字の多寡ではなく、いかに存在し、いかに周りによりよい影響を与えたかだ

※ワタミグループ憲章はワタミグループの経営判断基準を明文化したものです。

ワタミグループに共通する経営の考え方

ワタミグループは、理念の共有を最重要視し、事業展開しています。

ワタミグループがその事業に参入してくれてよかったと言っただけのように、「人」と「人」がふれあう、あらゆる場面で、「ありがとう」を集めます。ワタミは、様々な社会貢献型ビジネスをグループで展開し、ステークホルダーの皆様から、感謝と信頼を集め続けることを目指します。

ワタミグループ スローガン

「地球上で一番たくさん“ありがとう”を集めるグループになろう」

ワタミグループ ミッション

「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」

ワタミグループ 経営の基本目的

「会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者の繁栄、新しき文化の創造、人類社会の発展、人類の幸福への貢献」

グループ社員の仕事の仕方に対する合言葉

「from-O」

「明るくのびのびと仕事をしよう」

グループ社員としての行動基準

ワタミグループは日々の仕事の中で以下の基準を常に意識し、行動し、常にワタミらしくあるべし

- 一、常に謙虚なれ 常に感謝せよ
- 一、他人の喜びや悲しみを共有せよ
- 一、約束を守る、嘘をつかない
- 一、愚痴、陰口を言わない
- 一、笑顔で元気よく挨拶をする
- 一、出来ないと言わない
- 一、失敗を他人のせいにならない
- 一、大いに発言し、果敢に実行する
- 一、他人の意見を聞く
- 一、恥ずかしいと思うことはしない

グループ社員の仕事に対する心構え

ワタミグループは同じ目的のために同じ心を持つ同志の集合体であるべし

- 一、感激できる感性を持つべし 感激は情熱の源であり、情熱は成功への出発点である
- 一、逆境に悲観せず、順境に楽観せず、常にハンタリー精神を持ち挑戦し続けるべし
- 一、勝つまで戦え、限界からあと一歩進め、結果がすべてである
- 一、問題意識を持つべし 問題の発見と解決が次のビジネスチャンスを生む
- 一、継続こそ力なり 日々の努力は継続されることにより信用を生み、信用は力を生む

「体の重い亀」

ワタミグループのキャラクターで、グループ報のネーミングにもなっている亀さんです。まじめで一生涯懸命、スピードは出ないけれど、着実に、一歩一歩、進む亀。できることから少しずつ、目標に向かってコツコツと、決して後戻りしない亀、私たちの姿勢の象徴です。



ワタミグループの特徴

持続可能な経営へ挑戦し続けます。

ワタミグループの特徴「経営理念」 今まで、そしてこれからも

ワタミグループは、「人間は本来持っている誠実さ、思いやり、感謝する心、そのような美しい資質を高めるために生まれてきた。企業活動においても人間性を向上できる環境をつくっていききたい」と考え、創業当時より、人としての人間性、企業としての企業性を重視し、あらゆるステークホルダーの皆様の満足を目指してきました。「地球上で一番たくさん“ありがとう”を集めるグループになろう」というグループスローガンに代表されるワタミ理念に基づき経済的・社会的・環境的ニーズの充足に挑戦し、既存の慣習に捉われない革新的な社会づくりに挑戦・邁進しています。

① 理念に基づき 存在対効果を最大に

ワタミグループは、社員一人ひとりが集めた「ありがとうの総和」こそが会社の価値をつくると考えています。

お客様から“ありがとう”をいただくことはもちろん、株主様、お取引業者様、従業員、地域・社会、そして地球環境への対応など、あらゆる場面で集める“ありがとう”が最大となるべく事業展開をしています。

ワタミグループと出会ったすべての方たちに、私たちの存在を喜んでいただけることを目指します。

② 理念へのこだわりから 生まれたビジネスモデル

ワタミグループは、「創業者の思い」をそのまま現在へと引き継ぎ、事業を展開しています。

「ワタミグループがその事業に参入してくれてよかった…」と言っただけのことを目指し、どのような事業(業界)でも、常にあるべき姿を考え、皆が不便を感じていれば、そこに創意工夫を加え、挑戦を続けている姿が現在のワタミグループなのです。

③ ワタミ最大の財産は 思いを共有した「人」

「企業は人そのもの」であり、私たち一人ひとりが、人生の主人公となる舞台として会社があります。

会社とは、「創業者の思い(ミッション)」があってこそ、はじめて人が集まり、“ありがとう”が集まる。それが本来ではないかと考えています。

この「創業者の思い」と「それをともに実現しようとする仲間」が集まったのがワタミグループです。

ブランドテーマ

ワタミグループは、環境、社会、そして人に対して、よりやさしい存在になることを目指し、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマとして掲げ、取り組んでいます。

ブランドテーマは、私たちの存在そして行動が、グループが活動するどの領域においても「社会に対してプラスになる(我々の存在が周りに良い影響を与えられるように行動する)」という宣言です。

そして、会社の存在そのものから事業の選び方も、仕事の仕方も、人に良い影響を与える存在であり続け、テーマとして掲げたことを、常に忘れず、少しずつでもやり続けるという意志表示です。



ワタミ理念に基づき、 社会の課題解決に貢献します。

事業活動を通じて“ありがとう”を集めます。各事業活動を通じて目指すことを表現した経営目的

外食

一人でも多くのお客様にあらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること

おいしいものがあって、良いサービスがあって、良い雰囲気がある場所に、好きな人と一緒にいる…。こんな場面を提供したいと考え、「安全・安心・手づくり」の商品・サービスの提供、快適な空間づくりにこだわっています。

「お店はお客様だけのものである」を店舗基本理念として、今後も笑顔の溢れる場面を一つでも多く提供していきます。



国内外食：ワタミフードサービス株式会社、WATAMI USA GUAM
海外外食：和民国際有限公司、和民（中国）有限公司、和民餐飲（深圳）有限公司、和民餐飲管理（上海）有限公司、台灣和民餐飲股份有限公司、Watami Food Service Singapore Pte. Ltd.

マーチャンダイジング

バラエティ豊かで、常に変化し続けるメニューを支え、安全・安心な製品を安価で提供すること

「食」を取り巻く環境の変化がますます加速する中で、「食の安全・安心を守る」ことは、「食」に関わる企業として当然の責務であると考えます。

ワタミ手づくりマーチャンダイジングは、生産から消費までの商品の全工程を設計して「安全・安心」な商品をお届けします。これからも、「食」を通じてお客様からたくさんの“ありがとう”を集める活動を広げていきます。



ワタミ手づくりマーチャンダイジング株式会社

介護

一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと

「自分の両親にして欲しいと思うことをすべてさせていただこう」を合言葉に、家庭的で居心地の良い清潔な空間で、お一人お一人のご入居者様に、ご自分らしく自由に豊かな時間が流れる暮らしを送っていただくことを目指します。

すべての方に「ワタミのホームに親を入居させたいと思う子は親孝行だ」と言っていただける介護施設にすること、親を思う気持ちをカタチにしていくことこそ「ワタミの介護」です。



ワタミの介護株式会社

農業

有機農業を発展させ、循環型社会を創造し、人々の幸せに貢献する

安全・安心な農産物の提供と国内の農業における諸問題を改善しようと、全国の生産者様と連携し、有機農業を積極的に推進しています。

地域に根ざした有機農業を発展させることで循環型社会を創造し、豊かなライフスタイル創造に少しでも貢献させていただくことを目標に掲げ、事業を展開しています。



有限会社ワタミファーム

ワタミグループでは、一人ひとりが理念に基づく自発的な活動目標を設定し、新たな価値の創出、持続可能な社会の実現に向け、その内容を深めています。企業とは、単なる営利追求組織ではなく、企業市民としての社会的存在であり、社会の一員としての使命（責任）を果たし続けることにより、その存在・継続性が確保されると考えています。

宅食

一人でも多くの高齢者の方にまごころを込めた食の宅配サービスを通じて、喜びと幸せをお届けすること

日替わりのお弁当と「まごころ」をお届けする。それを続けることで社会に欠かせないインフラになる。私たちの使命は、そこにあると考えています。おいしさや健康、食生活の利便性・充実。そして、その先にある、お客様のゆとりある、いきいきとした生活の実現をお手伝いする。それが「ワタミの宅食」の思いです。

そのために、すべてのスタッフがお客様を思い、毎日まごころを込めて取り組んでいます。



ワタミタクシヨク株式会社

環境

限りある資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献すること

1999年、日本の外食産業で初めてISO14001を本社とグループ外食店舗全店で取得。また、「ワタミ環境宣言」を発表し、外食店舗のエネルギー削減システムや廃棄物管理のノウハウを拡大・推進しました。環境宣言を実現するため、環境（エコロジー）と経済（エコノミー）の両立（W-ECO）を掲げ、事業で排出される環境負荷（CO₂と廃棄物）とエネルギーの削減に取り組んでいます。



ワタミエコロジー株式会社

事業を超えて“ありがとう”を集めます。
ワタミグループが支援する社会貢献団体の活動目的

■公益財団法人 School Aid Japan

一人でも多く子どもたちに、人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する

■NPO法人 Return to Forest Life

美しい地球を子どもたちに残すため、一つでも多くの森を再生することに貢献する

■一般財団法人 みんなの夢をかなえる会

一人でも多くの人々に“夢”の素晴らしさを認識してもらい、“夢”をもち、“夢”を追いかけるためのきっかけを提供する

■公益財団法人 有機質資源再生センター

再生可能な食品廃棄物をはじめとする有機質資源のリサイクルの促進に取り組む



各活動における基本的な考え

社会貢献& ボランティア活動

してあげるのではなく、させていただくことにより学び、感動し、結果として成長させていただくこと



ワタミ環境宣言

美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく



ステークホルダーの皆様から感謝と信頼を集め続けます。

コーポレートガバナンス ガバナンスに対する基本的な考え方

ワタミグループは、経営上のスピーディな意思決定を図りつつ、経営管理を効果的に行うことに努めています。コーポレートガバナンスの構築において、経営の透明性、企業倫理の確立は重要な要素であると認識し、継続的な改善活動に取り組んでいます。

グループ意思決定の仕組み

ワタミグループでは、ワタミ（株）の取締役およびグループ各社の社長・経営企画部門責任者などが参加する「グループ経営会議」を月2回開催しています。会議は、グループの事業効率を高めること、経営資源の管理、適正配分すること、潜在リスクに対応することなど、事業活動の安定性・信頼性を確保した上でグループの意思決定を行うことを目的としています。

また、ワタミグループでは稟議システムを採用しており、一定基準の案件に関しては関係部門と管理部門の審議を経た上で、業務の執行を行う体制をとっています。社内規定に基づき、経営企画グループがそのシステムの管理・運用を行い、業務管理グループがその執行状況を監査しています。

さらに経営状態・サービス提供状態・従業員のマネジメント状況などを多角的に把握するため、グループ各社ごとに開催する

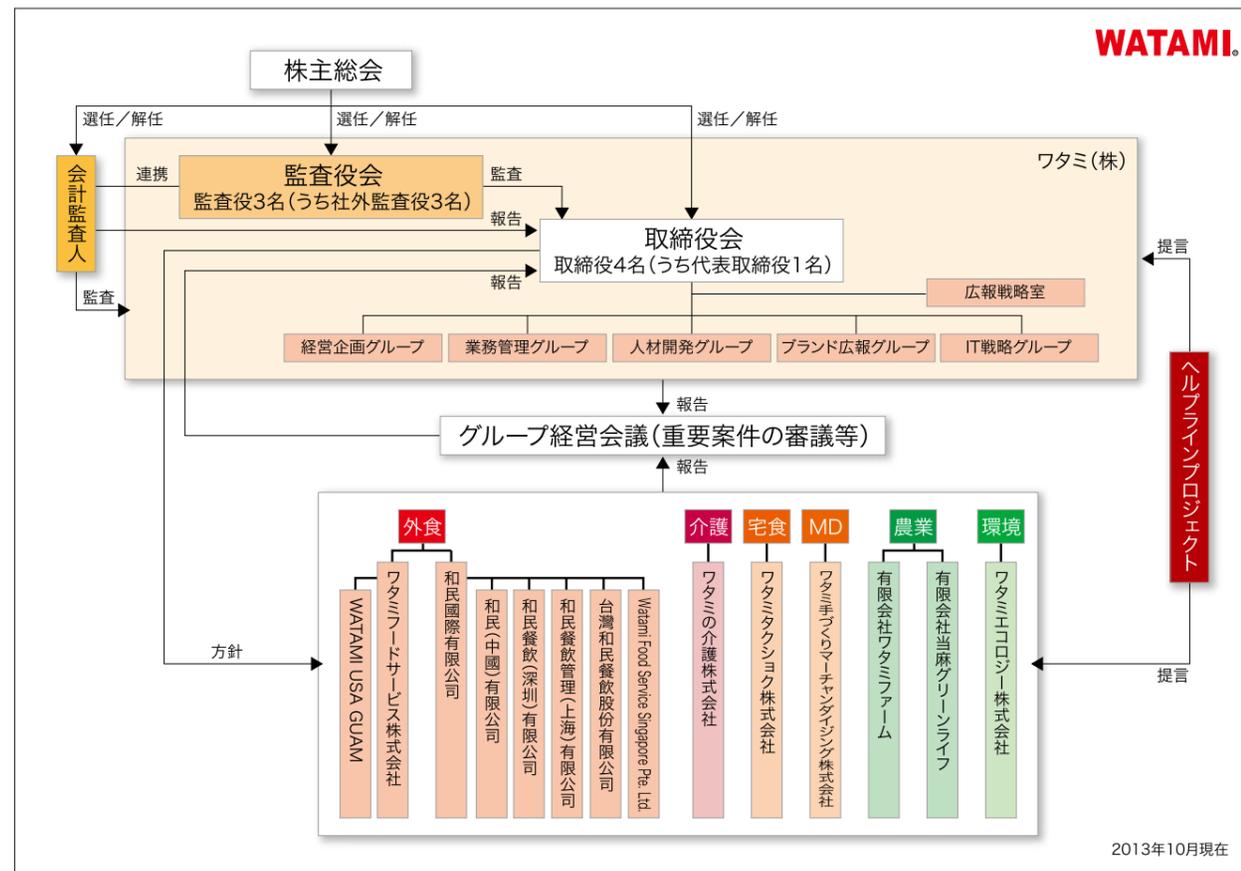
「役員会」の中で、KPI(Key Performance Indicator：重要経営指標)の確認、レビューを実施しています。これによってグループ各社の課題の早期発見・解決を図り、意思決定の質・スピードの向上を実現しています。

「外部有識者による業務改革検討委員会」の設置

ワタミグループは、これまでも法令順守を経営上の重要なテーマとして取り組んできました。ワタミグループが大切にしている経営理念に基づいた運営がなされているかという点について、客観的で公平な立場から確認し検討すべく、2013年6月に「外部有識者による業務改革検討委員会」を設置しました。

同委員会による提言内容に関して、真摯に検討し、ワタミグループの経営に反映していきます。

■意思決定の流れと組織図



コンプライアンス 企業倫理とコンプライアンスの徹底

ワタミグループは、企業としての社会的責任を果たすべく、「企業倫理の確保」と「順法精神の醸成」を最も重要な活動として位置づけ、社内への浸透に取り組んでいます。一人ひとりが高い倫理観・使命感を持って実践できるよう全社員に「理念集」を配布し、グループ全社員が参加する「理念研修会」や「新入社員研修」にて、コンプライアンスをテーマに講義を行っています。

ワタミヘルプラインの開設

ワタミグループは、グループ内に存在する問題を広く受け付け、積極的に解決し、自己改善・自浄のできる組織になることを目指し、情報収集窓口（ワタミヘルプライン）を、グループ全従業員（パート・アルバイトメンバーを含む）およびお取引業者様に向け開設しています。

日本国内においては、公益通報者保護法にも準拠し、社内独立組織のヘルプラインプロジェクトに直結連絡する窓口と外部委託機関である（株）インテグレックス経由で連絡する窓口を設置、早期発見・未然防止の体制を強化するとともに、制度の透明性・利便性の向上、通報者の保護の徹底に努めています。

また、海外においては、2013年8月、香港にヘルプライン窓口を開設しました。今後、海外各拠点での運用を順次拡大していきます。

ヘルプライン受付アドレス

※下記のEメールアドレスへは、携帯電話からも送信可能です。

A ワタミヘルプラインプロジェクト w-helpline@watami.net

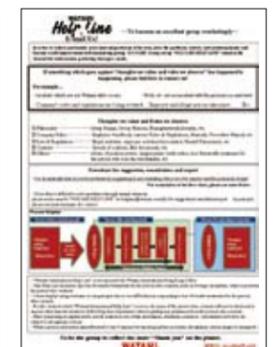
B (株)インテグレックス(外部委託会社) w-helpline@integrex.jp
インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>



ヘルプラインパンフレット（日本語）



ヘルプラインポスター（中国語）



ヘルプラインポスター（英語）

リスクマネジメント グループリスク管理体制の維持

ワタミグループは、内部統制の構築を通じて、コンプライアンス・リスクマネジメント体制を推進しています。また、内部監査によりグループ内に潜在しているリスクを把握し、「グループ経営会議」やグループ各社への提言を行い、是正・改善を図り、企業としての健全性（誠実さ・透明性）の確保に努めています。

内部統制の推進（金融商品取引法：J-SOX 対応）

ワタミグループは、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の評価・報告制度（J-SOX）への対応を図り、グループ各社における内部統制の体制構築、社内規定や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

「BCP」の策定・運用

ワタミグループは、大規模災害発生時の事業継続や復旧の必要が生じた場合を想定したBCP(Business Continuity Plan：事業継続計画)の策定・運用に取り組んでいます。

2012年度は、安否確認の精度向上のため、システム改訂を実施しました。また、個別事業所単位における、より具体的なBCPの検討、整備、訓練を開始しました。

ノロウイルスによる食中毒事故発生のご報告

ワタミフードサービス株式会社が運営する外食店舗において、2012年度にノロウイルスを原因とする食中毒事故が発生いたしました。

「わたみんな 水道橋西口東京ドーム口店」において、2012年12月5日及び12月6日に提供したお食事により食中毒を発生させたとして、12月13日から営業禁止ならびに施設および取扱改善命令の行政処分を受けました。本店舗は、2013年1月12日から営業を再開しております。

近隣ビルから同店舗内に流入した漏水が食中毒事故の原因であったことから、漏水していた壁の補修工事と、施設・取扱の改善を行いました。

同様の事象の有無について全外食店舗で調査を行い、必要な補修工事を行いました。

ワタミフードサービス株式会社では、従来より、安心して外食店舗をご利用いただけるよう衛生管理には細心の注意を払ってまいりましたが、今後とも日々のチェックを継続して行い、再発防止に努めてまいります。

今回、発症されたお客様に大変なご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。また、関係者の皆様にもご心配、ご迷惑をお掛けしましたこと、重ねて深くお詫び申し上げます。